



Chapter 2

InDesignの基本操作

2-01	新規ドキュメントの作成	p.060
2-02	ガイドを活用する	p.063
2-03	スマートガイドを活用する	p.067
2-04	表示の拡大／縮小	p.070
2-05	表示モードを変更する	p.072
2-06	4種類のフレーム	p.073
2-07	座標値とサイズ、基準点	p.075

Chapter 2 InDesignの基本操作

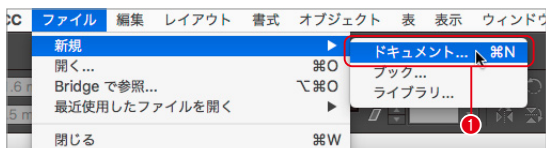
2-01 新規ドキュメントの作成

InDesignで新規ドキュメントを作成する場合、[レイアウトグリッド]と[マージン・段組]の2つのアプローチ方法があります。どちらを選んでも、最終的に同じ印刷物を作ることができますが、作業時における手間が変わってきます。用途によって使い分けると良いでしょう。

新規ドキュメントの作成

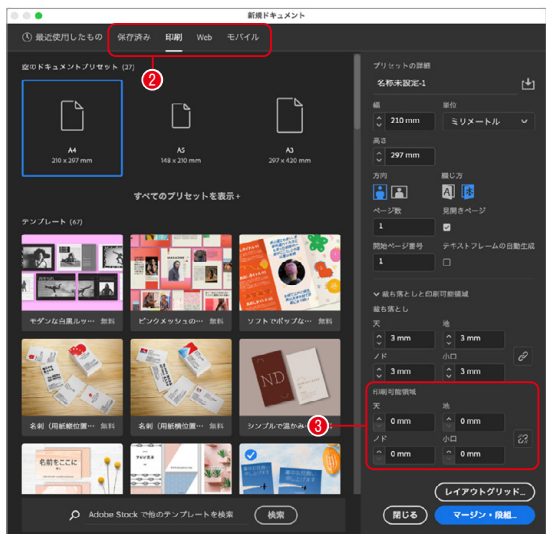
① [ドキュメント]を選択する

[ファイル]メニューから[新規]→[ドキュメント]を選択します(①)。



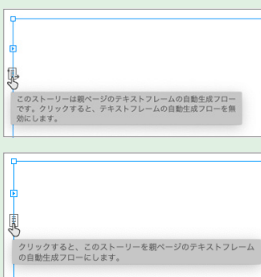
② ドキュメントの仕様を指定する

[新規ドキュメント]ダイアログが表示されるので、目的に応じて各項目を設定していきます(CC 2018からダイアログが変更されています)。「ドキュメントプロファイル」には、印刷物の制作であれば[印刷]、Web用パーツの制作であれば[Web]、電子書籍等の制作であれば[モバイル]を選択します(②)。選択した内容に応じて、単位や基本的なカラーモードが変わります。なお、デフォルトでは、裁ち落とし領域外のオブジェクトは印刷されされない設定になっていますが、「裁ち落としと印刷可能領域」の[印刷可能領域]を設定することで、その設定範囲内にあるオブジェクトの印刷が可能となります(③)。



One Point テキストフレームの自動生成

CS5.5まで[新規ドキュメント]ダイアログにあった[マスターにテキストフレーム]という項目は、CS6からは[プライマリテキストフレーム]という名称に、InDesign 2022からは[テキストフレームの自動生成]という名称に変更されました。このオプションをオンにすることで、マスターページ上に自動的にテキストフレームが作成され、ドキュメントページ上にはマスターページと連動したテキストフレームが作成されます。マスターページ上のテキストフレームに変更を加えれば、その変更は即座にドキュメントページ上のテキストフレームに反映されるため、レイアウトが変更される可能性があるような場合に使用すると便利です。詳細は、Chapter 3『3-09 テキストフレームの自動生成を活用する』を参照してください。



マスターページ上に作成された自動生成フローのアイコンをクリックすることで、テキストフレームの自動生成フローのオン/オフを切り替えることができます。

レイアウトグリッドを使用したドキュメントの作成

① [レイアウトグリッド]を選択する

レイアウトグリッドをベースとして作業したい場合には、[新規ドキュメント]ダイアログで各項目を設定した後、[レイアウトグリッド]ボタンをクリックします(①)。

One Point レイアウトグリッドとは

レイアウトグリッドとは、そのドキュメントにおいてレイアウトの目安となるレイアウト用紙だと考えると分かりやすいでしょう(フレームグリッドとは別物です)。一般的には、レイアウトグリッドを目安として、その上にフレームグリッドを作成します。



② [新規レイアウトグリッド]ダイアログを設定する

[新規レイアウトグリッド]ダイアログが表示されるので、本文として使用したい書式を設定していきます(②)。「グリッド書式属性」や「行と段数」を設定すると、その内容に応じて「グリッド開始位置」が計算されるので、天・地・ノド・小口、いわゆる版面の値を指定します(③)。その際、「グリッド開始位置」のプルダウンメニューには、値を指定しやすいものを選択すると良いでしょう。すべての指定が終わったら、[OK]ボタンをクリックします。

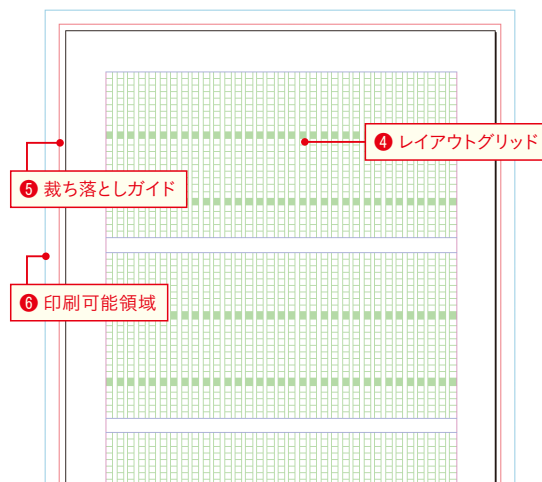


③ 版面(天・地・ノド・小口のアキ)を指定します。

② 本文に使用する書式を指定します。

③ レイアウトグリッドが作成される

指定した値でレイアウトグリッド(④)が作成されます。なお、赤いラインが裁ち落としガイド(⑤)、その外側の青いラインが印刷可能領域をあらわすガイド(⑥)です。



One Point 1歯詰めの指定

写植でよく使用された「1歯詰め」も再現可能です。[新規レイアウトグリッド]ダイアログで、「字間」をマイナスの値(1歯詰めなら-1)に設定します。もちろん、-0.5といった半端な値も指定可能です。

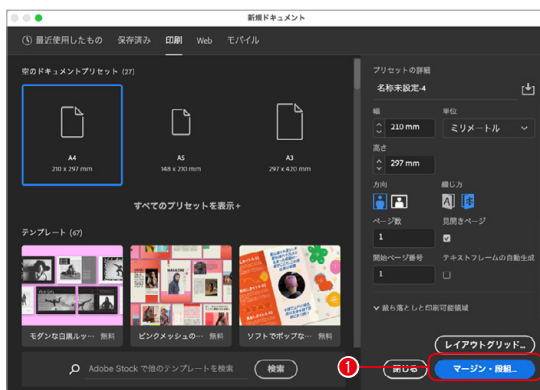
マージン・段組を使用したドキュメントの作成

① [マージン・段組]を選択する

最初にマージンのみを決定して作業を進めたい場合には、[新規ドキュメント]ダイアログで各項目を設定した後、[マージン・段組]ボタンをクリックします(①)。

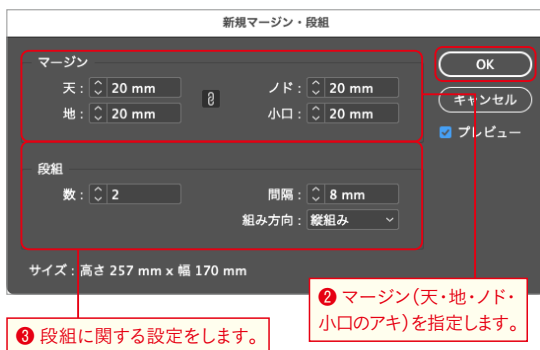
One Point ドキュメントプリセットの保存

新規ドキュメントの設定は、[ファイル]メニューから[ドキュメントプリセット]→[プリセットを管理(InDesign 2022までは定義)]を選択することで、保存が可能です。保存した設定は[ファイル]メニューの[ドキュメントプリセット]から選択可能になります。よく使用する設定は保存しておくといでしょう。



② マージンと段組を指定する

[新規マージン・段組]ダイアログが表示されるのでマージン(天・地・ノド・小口のアキ)を指定します(②)。次に[組み方向]や段数、段間等、[段組]に関する指定をしたら(③)、[OK]ボタンをクリックします。

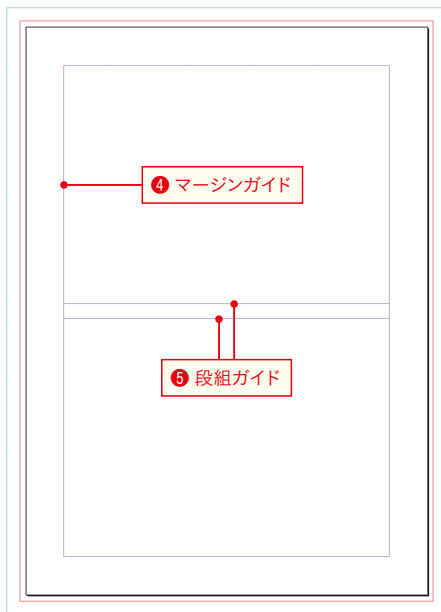


③ マージンと段組が指定される

指定した値でマージンガイド(④)と段組ガイド(⑤)が作成されます。なお、段組ガイドは[表示]メニューの[グリッドとガイド]→[段組ガイドをロック]をオフにすると、ドラッグして移動できます。

One Point レイアウト調整

[新規マージン・段組]ダイアログには、[レイアウト調整を有効にする]という項目があります。この機能は、ドキュメントサイズが変更になった場合に、[レイアウト]メニューの[レイアウト調整(CS5.5まで搭載されていた機能)]で指定された内容に基づいて、各オブジェクトの位置やサイズを再調整してくれる機能でした。しかし、CS6からはリキッドレイアウトの機能が搭載され、より高度にオブジェクトの調整が可能になっています。詳細はChapter 7『7-16 リキッドレイアウトを設定する』を参照してください。なお、この項目はCC 2019で削除されています。

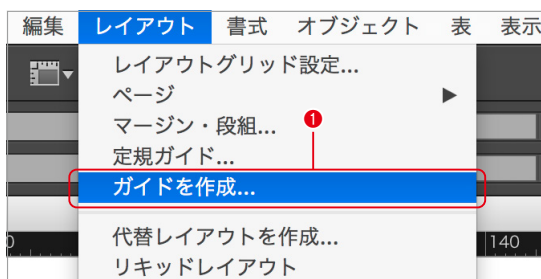


レイアウトグリッドやマージンガイド、段組ガイド以外にも、InDesignにはさまざまなガイドが用意されています。オブジェクトを揃える作業には欠かせないガイドについて理解しておきましょう。

ガイドを作成

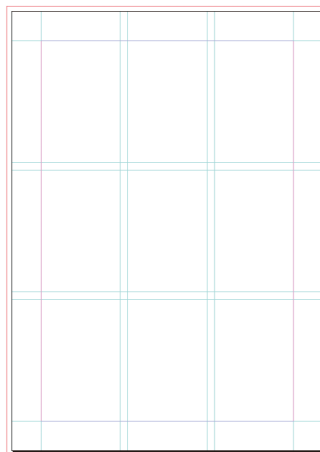
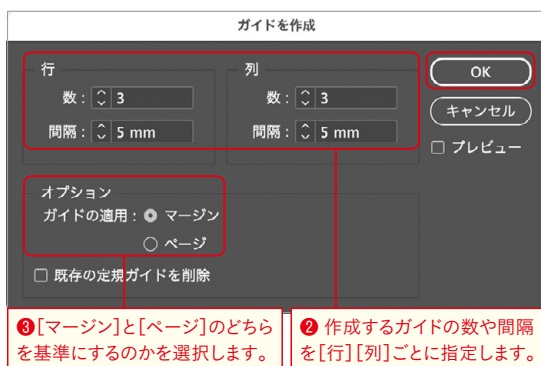
① [ガイドを作成]を選択する

オブジェクトは、ガイドにスナップ(吸着)させることができるため、オブジェクトを揃える際に、ガイドを活用すると便利です。ここでは、複数の等間隔のガイドを作成する方法をご紹介します。まず、[レイアウト]メニューから[ガイドを作成]を選択します(①)。



② マージンを基準にガイドを作成する

[ガイドを作成]ダイアログが作成されるので、[行][列]のそれぞれに、作成するガイドの[数]やその[間隔]を指定します(②)。また、ガイドを[マージン]あるいは[ページ]のどちらを基準に作成するのを選択し(③)、[OK]ボタンをクリックすればガイドが作成されます。図では、[マージン]を基準にガイドを作成しました。なお、既に作成済みのガイドを削除して、新規にガイドを作成する場合には[既存の定規ガイドを削除]にチェックを入れます。

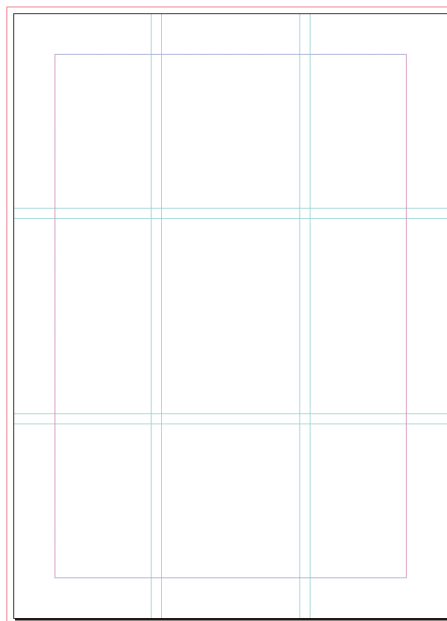
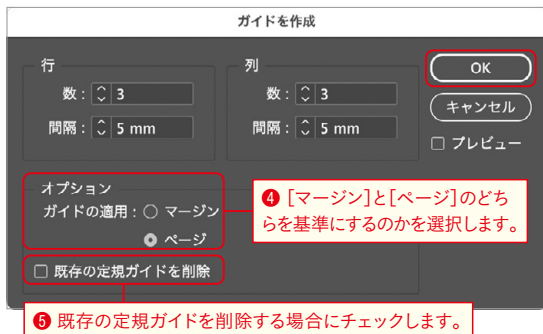


One Point 四則演算と全角数字の入力

InDesign CS6より、各パネルの入力フィールドにおいて、複数の演算子(+ - * /)の入力が可能となりました。さらに、InDesign CCからは全角数字の入力にも対応しています。

③ ページを基準にガイドを作成する

今度は、ページを基準にガイドを引いてみましょう。[ガイドを作成]ダイアログで[行]や[列]を指定したら、[ページ]にチェックを入れて(④)、[OK]ボタンをクリックすると、ガイドが作成されます。なお、既に作成済みのガイドを削除して、新規にガイドを作成する場合には[既存の定規ガイドを削除]にチェックを入れます(⑤)。

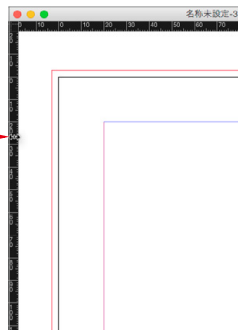


定規ガイドを作成する

① 定規の上でクリックする

任意の位置にガイドを引きたい場合には、定規ガイドを作成します。水平定規または垂直定規(図では垂直定規)の上をマウスでプレスすると、図のようにマウスポインタの表示が変わります(①)。なお、バージョンによってはマウスポインタの表示が変わらないものもあります。

① 定規の上でプレスします。

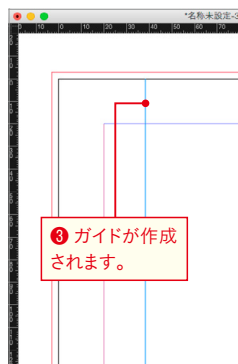


② 定規ガイドを作成する

そのままガイドを引きたい位置までドラッグし(②)、マウスを離すとその位置にガイドが引かれます(③)。なお、ドラッグ中はマウスポインタの右側に現在の座標値が表示されますが、[shift]キーを押しながらドラッグすると、定規の目盛りにスナップさせながらドラッグできます。

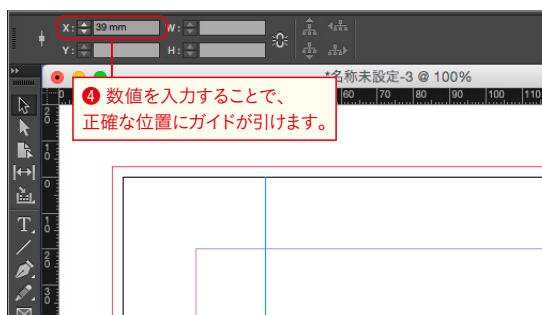
② 目的の位置までドラッグします。

③ ガイドが作成されます。



③ 位置を調整する

なお、マウスを離れた直後はガイドが選択された状態になっているため、[コントロール]パネルや[変形]パネル、[プロパティ]パネルの[変形]に数値を入力することで、正確な位置にガイドを引くことができます(④)。

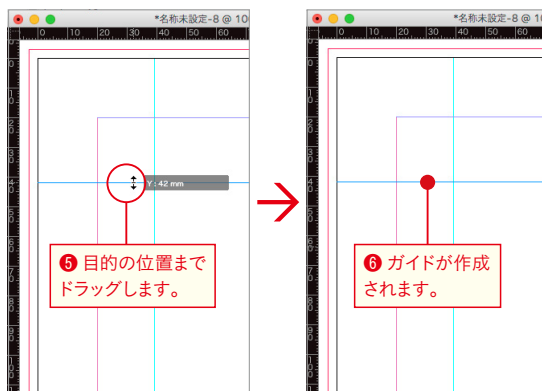


④ 水平方向のガイドを作成する

水平方向のガイドも作成方法は同じです。水平定規上をプレスしたら、目的の位置までドラッグして(⑤)、マウスを離せばガイドが作成されます(⑥)。

One Point スプレッドガイドの作成

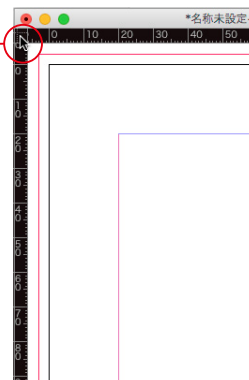
水平方向のガイドは、マウスを離れたページ上に作成されますが、**⌘**キー (Windowsでは**Ctrl**キー)を押しながら定規からドラッグするか、あるいはペーストボード上でマウスを離すと、見開きにまたがるガイド(スプレッドガイド)が作成できます。



⑤ 水平・垂直の定規ガイドを一気に作成する

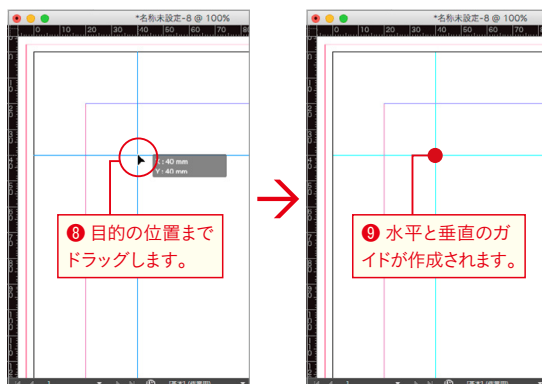
水平と垂直の定規ガイドを、一度の操作で作成することもできます。**⌘**キー (Windowsでは**Ctrl**キー)を押しながら、水平定規と垂直定規の交点をマウスでクリックします(⑦)。

⑦ **⌘**キー (Windowsでは**Ctrl**キー)を押しながらクリックします。



⑥ 水平と垂直の定規ガイドが作成される

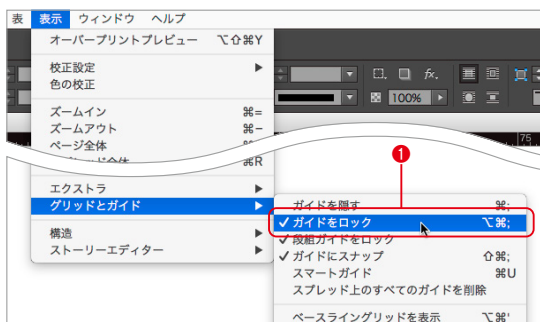
目的の位置までドラッグし(⑧)、マウスを離すと水平と垂直の定規ガイドを一気に作成できます(⑨)。



定規ガイドの選択と移動

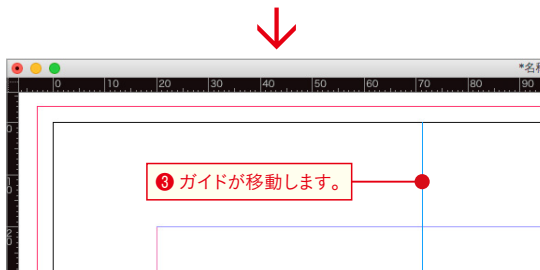
① 定規ガイドのロックを解除する

定規ガイドは、通常のオブジェクト同様、選択して移動することができます。ガイドは、選択ツールでクリックすれば選択できますが、選択できない場合にはガイドがロックされているので解除します。[表示]メニューの[グリッドとガイド]→[ガイドをロック]をオフにすれば解除できます(①)。既にオフになっていれば、この手順は必要ありません。



② 定規ガイドを選択してドラッグする

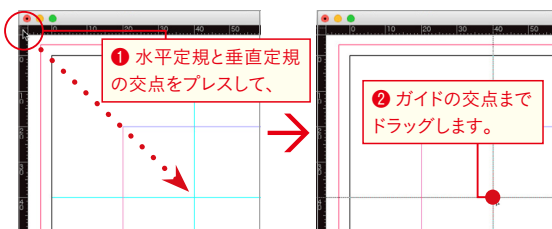
選択ツールで目的の定規ガイドを選択したら、そのまま掴んでドラッグします(②)。マウスを離すと、その位置にガイドが移動します(③)。



原点の移動

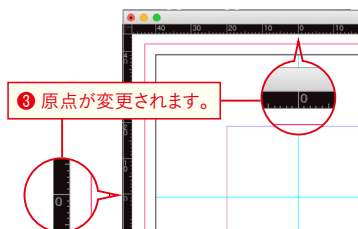
① 原点をドラッグして変更する

水平定規と垂直定規の交点をプレスして(①)、新しく原点にしたい場所までドラッグします(②)。ここでは、既に作成済みのガイドの交点までドラッグしました。



② 原点が変更される

マウスを離すと、原点が変更されます(③)。なお、原点を元に戻したい場合には、水平定規と垂直定規の交点をダブルクリックします。



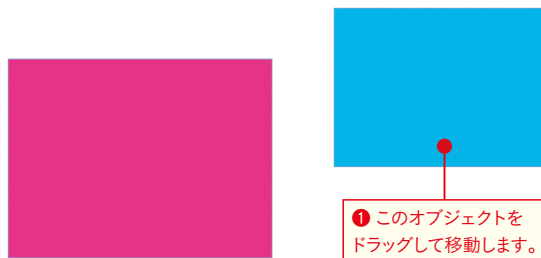
2-03 スマートガイドを活用する

オブジェクトを新規に作成したり、移動、変形する際に便利なのが、スマートガイドの機能です。作業内容に応じたさまざまなガイドが表示され、直感的に作業できます。スマートガイド、スマートサイズ、スマートスペーシング、スマートカーソルの4つからなっています。

スマートガイド

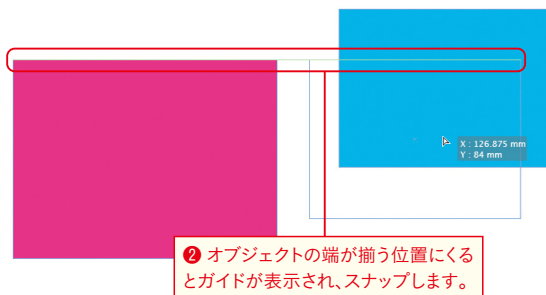
① スマートガイドとは

オブジェクトを揃える際に、他のオブジェクトの端や中心に揃う位置にくるとガイドが表示され、スナップされます。これがスマートガイドです。例えば、図のような2つのオブジェクトがあるようなケースで、シアンオブジェクトを移動させてみましょう(①)。



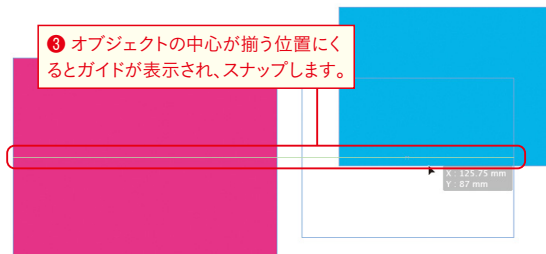
② 端にスナップする

シアンオブジェクトを移動させていくと、マゼンタオブジェクトの上端にシアンオブジェクトの上端が揃う位置にくるとガイドが表示され、スナップされます(②)。これがスマートガイドです。



③ 中心にスナップする



さらにオブジェクトを動かしていくと、今度は2つのオブジェクトの中心が揃う位置でガイドが表示され、スナップされます(③)。このように、オブジェクトの端や中心が揃う位置にくるとガイドが表示されスナップされるため、簡単にオブジェクトを揃えることができます。



One Point スマートガイドが表示されない?

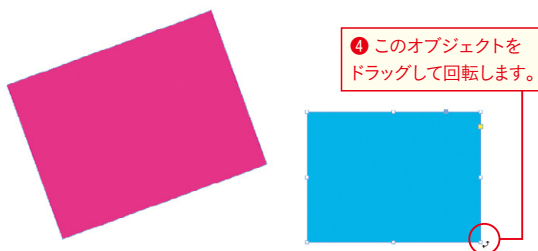
スマートガイドの機能は、[表示]メニューの[グリッドとガイド]にある[グリッドにスナップ]と[レイアウトグリッドにスナップ]のいずれかの項目がオンになっていると動作しないので注意してください。

One Point スマートガイドの表示／非表示

スマートガイドの表示／非表示は、 + U (Windowsは  + U) で切り替えられます。

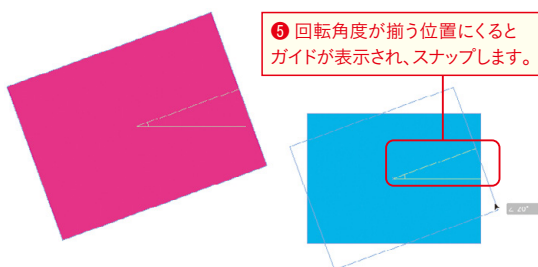
④ 回転角度を揃える

回転角度を揃える場合にもスマートガイドは表示されます。シアンオブジェクトを回転させてみましょう(④)。



⑤ 回転角度が揃う

シアンオブジェクトを回転させていくと、マゼンタオブジェクトの角度とシアンオブジェクトの角度が同じになる位置になるとガイドが表示され、スナップされます(⑤)。



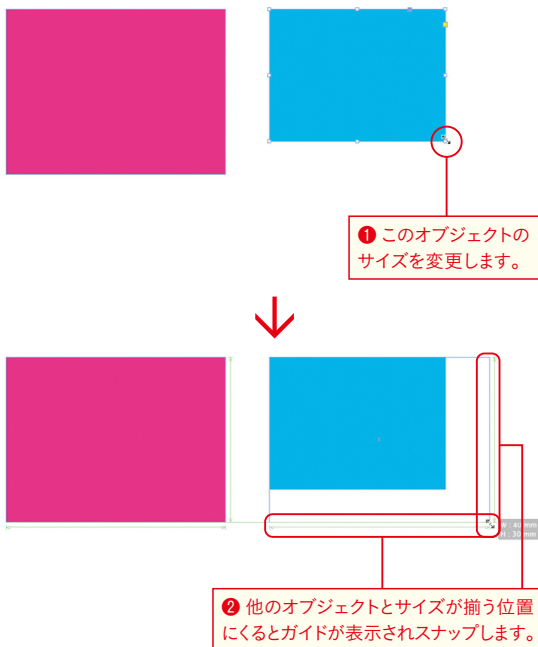
One Point スマートガイドを一時的にオフに

Macでは、オブジェクトのドラッグを開始した後に`control`キーを押したままにすることで、すべてのスマートガイドを一時的にオフにすることができます。

スマートサイズ

オブジェクトを新規作成、変更、回転する際に「幅」「高さ」「回転」が表示され、サイズや回転がまわりのオブジェクトと同じになるとハイライト表示されます。例えば、図のような2つのオブジェクトがあるケースで、シアンオブジェクトのサイズを変更してみましょう(①)。

すると、他のオブジェクトと縦、または横のサイズが同じになる所で、サイズが同じことを示すガイドが表示され、スナップします(②)。



Chapter 2 InDesignの基本操作

2-04 表示の拡大／縮小

表示の拡大／縮小は、頻繁に行う作業です。InDesignでは、さまざまな方法で表示の拡大／縮小が可能です。作業内容に応じて、使い分けるとよいでしょう。

ズームツールで拡大・縮小する

① クリックして拡大／縮小する

[ツール]パネルから[ズームツール]を選択すると(①)、マウスポインタの形状が変わります。拡大したい場所でクリックすると(②)、その位置を中心に拡大されます(③)。続けてクリックすると、さらに拡大されます。なお、縮小したい場合には、**option** キー (Windowsでは**Alt** キー)を押しながらクリックします。



② ドラッグして拡大／縮小する

[ズームツール]を選択し、クリックではなく任意の場所をドラッグすると(④)、ドラッグした範囲がウィンドウいっぱいに表示されます(⑤)。なお、**option** キー (Windowsでは**Alt** キー)を押しながらドラッグして縮小することも可能です。ただし、アニメーションズームがオンになっている場合は、次ページの「One Point」のような動作となります。

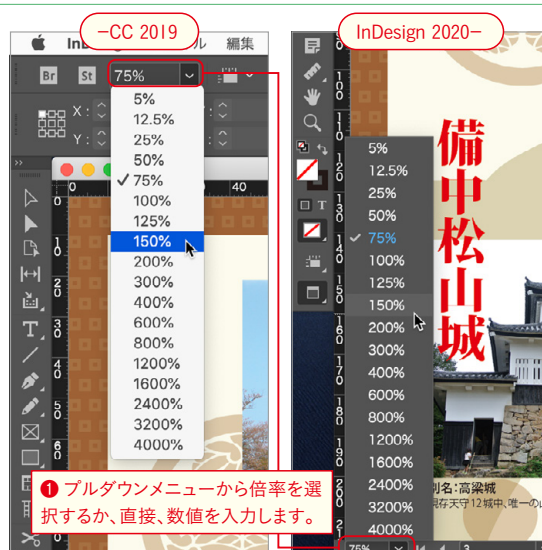


表示倍率を変更する

現在の表示倍率は、CC 2019まではアプリケーションバーの[ズームレベル]に、InDesign 2020からはウィンドウ左下に表示されています。プルダウンメニューから目的の倍率を選択、あるいはウィンドウに直接、数値を入力することで目的の倍率に変更できます(①)。

One Point アニメーションズーム

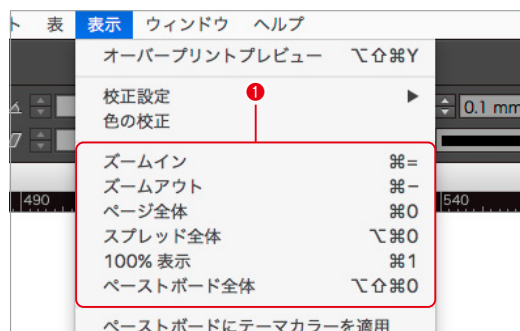
CC 2015.4 (11.4.0.90 ビルド)より、アニメーションズームが可能になりました(GPUパフォーマンスに対応しているマシンのみ)。**[環境設定]**の**[GPUパフォーマンス]**で**[アニメーションズーム]**がオンになっている場合、**[ズーム]**ツール選択時にプレスしながら左方向にドラッグするとズームアウトし、右方向にドラッグするとズームインします。



① プルダウンメニューから倍率を選択するか、直接、数値を入力します。

[表示]メニューを使用する

[表示]メニューには、拡大のための[ズームイン]コマンド、縮小のため[ズームアウト]コマンドが用意されています。これらのコマンドを使用して拡大/縮小ができますが、実際の作業ではショートカットを使用すると素早く作業できます(①)。なお、[ページ全体][スプレッド全体][100%表示][ペーストボード全体]コマンドもよく使用するので、ショートカットを覚えておきましょう。



One Point パワーズーム

[手のひらツール]を選択時に、マウスをプレスするとマウスポインタの表示が変わり、赤い枠が表示されます。この赤い枠を「ズーム領域マーキー(①)」といい、この状態で任意の場所に移動してマウスボタンを離すと、画面表示の領域を移動することができます。この際、ズーム領域マーキーで指定された場所が元のズームレベルで表示されます。なお、ズーム領域マーキーのサイズは、上下の矢印キーまたはマウスのスクロールホイールを使用して拡大または縮小できます。

※この操作は、任意のツールを選択時に[] (スペース)キーを選択している場合にも有効です。

※文字編集をしている場合でも、[option]キー (Windowsは[Alt]キー)を押して一時的に[手のひらツール]になっていれば有効です。



① [手のひらツール]選択時に、マウスをプレスすると、ズーム領域マーキーが表示されます。

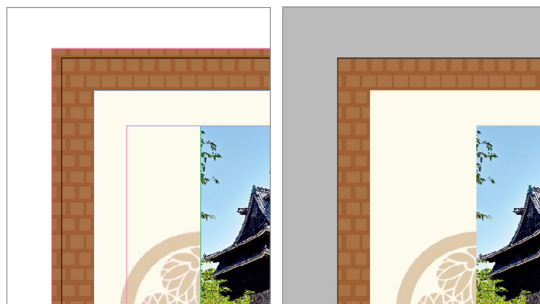
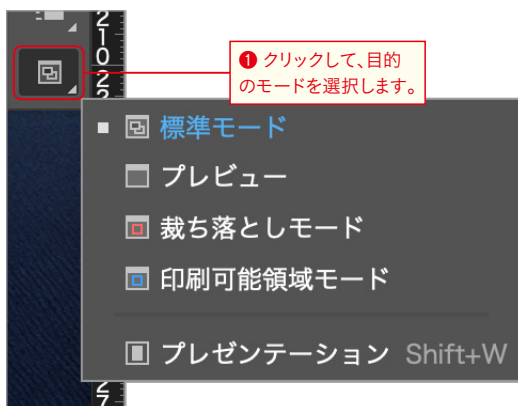
Chapter 2 InDesignの基本操作

2-05 表示モードを変更する

実際には印刷されないガイド類は、表示と非表示を切り替えながら作業すると便利です。[表示]メニューからも切り替えられますが、すべての印刷されないオブジェクトを非表示にする際には、[ツール]パネルから切り替えると良いでしょう。

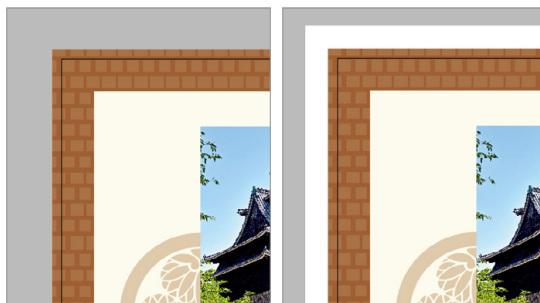
表示モードの変更

実際には印刷されないフレーム枠やガイド類は、作業時には欠かせないものですが、仕上がりのイメージを確認したい時には、非表示にしたいケースもあります。さまざまな方法で表示を切り替えられますが、印刷されないオブジェクトすべてを一気に非表示にするには、表示モードを切り替えると便利です。[ツール]パネルの一番下のアイコンをクリックすることで切り替えが可能ですが、**(1)**、**[W]** キーを押すことでも切り替えられます。なお、[プレゼンテーション]は、その名のとおり、プレゼンテーション時に使用するモードなので、印刷物を制作する時は使用しません。



標準モード

プレビュー



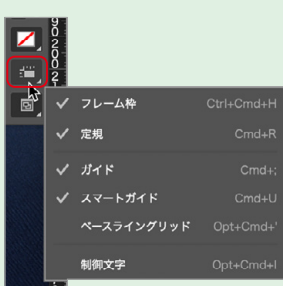
縦ち落としモード

印刷可能領域モード

One Point [表示]メニューからの切り替えとツールパネルの[表示オプション]

[表示]メニューの[エクストラ]と[グリッドとガイド]には、ガイドをはじめ、グリッドやフレーム枠等の表示／非表示を個別に切り替えるコマンドが用意されていますが、InDesign 2020から[ツール]パネルに[表示オプション]のアイコンが追加されました。

このアイコンから[フレーム枠]や[定規][ガイド][スマートガイド][ベースライングリッド][制御文字]のそれぞれにおいて、表示／非表示の切り替えが可能になっています。

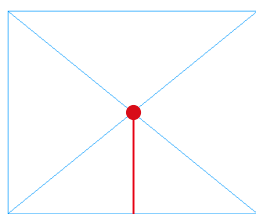


InDesignには、4種類のフレームが用意されています。それぞれのフレームの基本的な用途は決まっていますが、配置する内容によってフレームの属性は変化します。InDesignのフレームの特性を理解しておきましょう。

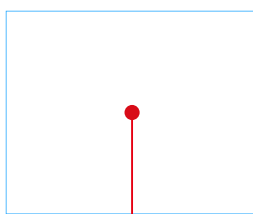
4種類のフレーム

① InDesignのフレームとは

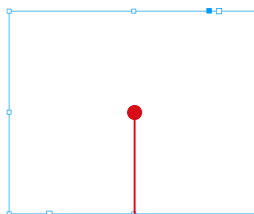
InDesignでは、画像やテキストといったアイテムをレイアウトする場合には、必ずフレームと呼ばれる入れ物の中に配置して作業を行います。この考え方は、Illustratorと大きく異なります。フレームは4種類あり、(長方形)フレームツールで作成する画像配置用のグラフィックフレーム(①)、(長方形)ツールで作成する長方形(②)、文字ツールで作成するテキスト用のプレーンテキストフレーム(③)、そしてグリッドツールで作成するフレームグリッドがあります(④)。



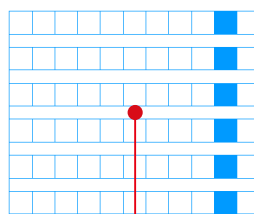
① グラフィックフレーム



② フレーム(長方形)



③ プレーンテキストフレーム



④ フレームグリッド

② 変化するフレームの属性

本来、それぞれのフレームの役割は異なりますが、試しに各フレームに画像を配置してみましょう。グラフィックフレームに画像が配置できるのは当たり前ですが、その他のフレームにも画像が配置できてしまうはずです。これは、元のフレームの属性がなんであれ、InDesignは配置したものの内容に応じてフレームの属性を変化させることができるためです。



グラフィックフレーム



フレーム(長方形)



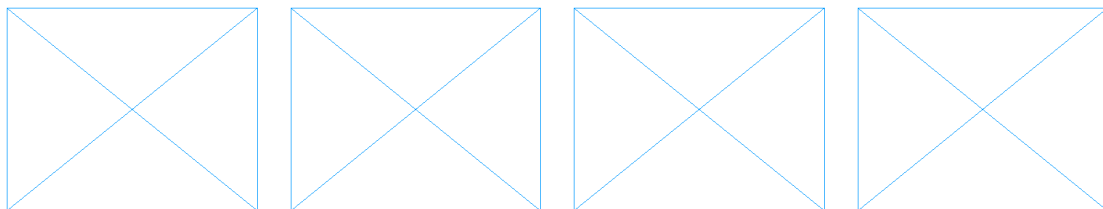
プレーンテキストフレーム



フレームグリッド

③ 変化したフレームの属性

今度は、[ダイレクト選択ツール]で各フレーム内をクリックし、**[delete]** キーを押して画像を削除してみましょう。すべてのフレームがグラフィックフレームに変化しているのが分かります。



グラフィックフレーム

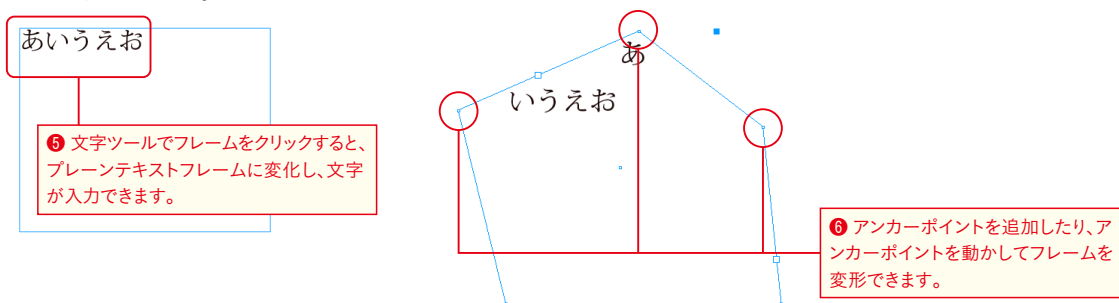
フレーム(長方形)

フレームテキスト

フレームグリッド

④ パスでできているフレーム

では、[文字ツール]でいずれかのフレームをクリックしてみましょう。フレーム内にカーソルが表示され、文字が入力できるはずです(⑤)。さらに、ペンツールでフレームのライン上をクリックしてアンカーポイントを追加してください。もちろん、アンカーポイントは動かすことができるので、フレームの形も自由に变形できます(⑥)。このように、InDesignのフレームはパスでできている、自由度が非常に高いことが分かります。



⑤ フレームの属性はメニューからも変更可能

InDesignでは配置したアイテムの内容によって、フレームの属性は自動的に変化しますが、メニューから手動で変更することも可能です。[オブジェクト]メニューの[オブジェクトの属性](⑦)、および[フレームの種類](⑧)で目的のものを選択します。



⑦ 目的のものを選択して、オブジェクトの属性を変更できます。



⑧ 目的のものを選択して、フレームテキストフレームとフレームグリッドを切り替えられます。

2-07 座標値とサイズ、基準点

各オブジェクトの位置やサイズは、[コントロール]パネルや[変形]パネルに表示されます。位置やサイズを数値で正確にコントロールしたい場合には、オブジェクトを選択後に[コントロール]パネルや[変形]パネルで直接、値を入力します。

座標値とサイズの表示と基準点の指定

① 座標値とサイズの値

オブジェクトを選択した際、そのオブジェクトの座標値やサイズは[コントロール]パネルや[変形]パネルに表示されます。

X：X位置（横方向の座標値）

Y：Y位置（縦方向の座標値）

W：幅（width）

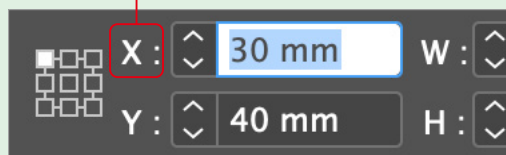
H：高さ（height）

その際、[基準点]にどこを選択しているのかで、[X位置]と[Y位置]の値は異なります(①)(②)(③)。

One Point 座標値やサイズの変更

X・Y・W・Hをはじめとする各項目を選択（ハイライト）する際には、各フィールドをクリックして選択するよりも、項目名の部分をクリックするのがお勧めです。項目名をクリックすることで、フィールド内の数値がすべて選択された状態になります。

ここをクリックします。



② [X位置]をハイライトさせる

座標値やサイズをはじめとする各項目は、マウスで選択すれば値を変更できますが、オブジェクトを選択したまま、**⌘**+**6** (Windowsは**Ctrl**+**6**) キーを押すことで[X位置]をハイライトできるため(④)、マウスを使用することなく、キーボード操作のみで値を変更できます(⑤)。なお、テンキーの「6」では反応しないので、フルキーの「6」を押してください。さらに、**tab** キーを押すことで次のフィールドに移動できるので、数値を入力しながら連続して各項目を入力していけます。

One Point テキストを選択している場合

文字ツールでテキストを選択している場合に**⌘**+**6** (Windowsは**Ctrl**+**6**) キーを押すと、[コントロール]パネルのフォント名がハイライトされます。

One Point [コントロール]パネルが非表示の場合

[コントロール]パネルが非表示の場合でも、**⌘**+**6** (Windowsは**Ctrl**+**6**) キーを押すと、自動的に[コントロール]パネルが表示されます。

③ 基準点をハイライトさせる

また、**⌘**+**6** (Windowsは**Ctrl**+**6**) キーを押した後、続けて**shift**+**tab** キーを押すと、基準点がハイライトされます(⑥)。さらに続けて、**1** から **9** までのいずれかの数字を押すと、押した数字に応じた基準点を素早く選択できます。

- 1** → 左下
- 2** → 中下
- 3** → 右下
- 4** → 左中
- 5** → 中央
- 6** → 右中
- 7** → 左上
- 8** → 中上
- 9** → 右上

